

(資料)

プラトン『イオン』内容梗概

水*
崎
博
明

目次

- 第一章 (530a-c) ソクラテス吟誦詩人イオンに出会いその技への羨みを告げる。
- 第二章 (530c-531d) イオンの得意の含む問題——〈技術〉による語りであれば何故ホメーロスのみが得意なのか
- 第三章 (531d-532b) 主題を同じくする語りの優劣の判定は技術者のこと
- 第四章 (532c-533c) 技術による語り方の普遍性とイオンの語り方
- 第五章 (533c-535a) イオンの語り方は神的な力にこそ拠っていること

* 福岡大学人文学部教授

第六章 (535a-e) 伝達の伝達といふこと

第七章 (535e-536d) 指輪の列と神の乗り移り(靈感)

第八章 (536d-538a) 吟誦詩人の技術と異なる技術との個性

第九章 (538a-539d) 吟誦詩人の技術には何がよく語るべくも委されるのか

第十章 (539d-540d) 軍略統帥の技術の語る技術こそ

第十一章 (540d-541e) 二つの技術を一人の吟誦詩人として持つといふこと

第十二章 (541e-542b) 吟誦詩人としてのみの技術の突出とその神がかりたることの承認

第一章 (530a-c) ソクラテ吟誦詩人イオンに出会ひその技への羨みを告げる。

1. ソクラテス、イオンに出合つて何処から来たのかを問ひ、イオンからエピダウロスのアスクレピオスの祭りからであり、彼が賞を得たことを聞く。
2. ソクラテスの吟誦詩人への羨みの思ひの吐露・・・身の装飾、ホメーロスの思想内容をば学び尽くしてゐること

1. イオンのソクラテスの羨みの肯定と自慢
2. ソクラテスの問ひ・・・イオンは単にホメーロスについてのみ得意とするのか、それとも他の詩人らについても得意であるのか。
3. イオンの回答・・・ホメーロスについてだけであり、それで十分であること
4. ソクラテスの一つの確認
 - イ. 同じ内容のことを人々が語っているとすれば、その解説は同じやうになされる。
 - ロ. 同じ内容のことを人々が語ってゐない場合は語られてゐる主題については専門家こそが適切な解説家である。
 - ハ. 専門家は、同じ内容の語り方についても異なった語り方についてもその説明能力を持つ。
5. 以上の承認の上に立ったソクラテスの疑問・・・3で言はれたイオンはただホメーロスだけが得意だとするのは何故であるか。
 - イ. もし4のロであるのならイオンの言ひ分は尤もである。
 - ロ. もし4のイであるのならイオンの言ひ分は不可解である。

第三章 (531d-532b) 主題を同じくする語りの優劣の判定は技術者のこと

1. 前章5に続き

ハ・ホメーロスは戦争その他の叙事詩的なことどもを歌ってゐるが、それらはその他の詩人らも同様に歌ってゐる。

2. イオンの回答・・・前章4のイ(つまり、5のハ)ではあつてもホメーロスとその他の詩人たちとは語り方において優劣がある。

イ. 他の詩人らはより拙く語る。

ロ. ホメーロスはより上手に語る。

3. ソクラテスの更なる確認・・・語り方の優劣の判定者は誰か。

イ. 数についての諸々の発言において優れた発言を識別する者がゐる。

ロ. その者は劣つた発言の識別者と同一人でもある。

ハ. その同一人は数学の技術を持ってゐる人である。

ニ. このイロハは場合を変へて健康な食事についても言ふことが出来るが、我々はその識別者を医者だとする。

ホ. イロハニからの一般化・・・同一対象について諸々の発言があるとき発言の優劣を識別する者は常に同一の人である。

4. 2の再確認

5. 再確認と3のホから言ふべきこと・・・イオンはホメーロスのみならずその他の詩人等についても彼らの語り方の同様な識別

者である。

第四章 (532a-533c) 技術による語り方の普遍性とイオンの語り方

1. イオンの疑問・何故自分はホメーロスだけでは敏感に反応するがその他の詩人らに対しては反応しないのか。
2. ソクラテスの回答・・・イオンは技術と知識とによってホメーロスを語ってゐるのではない。・・ 技術によってイオンが語ってゐるのならば、必然的にその他の詩人らに対しても語ることがあらねばならぬ。・・ (詩についての) 技術は全体に渡る。
3. 2の確認からの一般化(素人として事実をありのままに言ふのだとして)
 - イ・ 絵画術の場合・・・上手・下手と数多く画家がゐるとしてポリュグノトスについてだけなら絵の優劣の識別が出来るがその他の画家は出来ないといふことがあるか。
 - ロ・ 同様に彫刻術の場合、そして一般化
4. イオンのこれらのソクラテスの推論を受け入れて、1のやうなあり方をする自分についての疑問

第五章 (533c-535a) イオンの語り方は神的な力にこそ拠ってゐること

1. イオンのホメーロスについての語り方の優秀は、技術によるのではなく神的な力によるのだといふ、ソクラテスの認識

2. その認識の説明

マグネシア石（ヘラクレア石）が鉄の指輪を牽きつけてはまたそれが他の指輪を牽きつける力を注ぎ込みそこに長い鎖を結果させるやうに、ムウサの女神もまた女神自らが人々を神がかりにしてはその神がかりの人々を通して他の神がかりになった人々の列を作るのである。（註）^① 叙事詩人〈抒情詩人も同様〉は神がかりとなり詩を語ってゐる。コリュバンテスの秘儀に加はる信徒、パッコスの信女の狂気との比較、忘我・神がかり・理性の喪失の中で）

3. この有様における神の意図……ただ神だけが真実の語り手なのであるが、ただ彼らを通して語りかけてゐるのだと分からせる。

4. 3の論の証拠としてのカルキディケのチュンニコス……アポロン讃歌Ⅱムウサの女神たちの見つけ出せしもの、と自ら言ふ。

5. イオンの承認と同意……詩人は靈感により神々から我々への伝達をしてゐること

第六章 (535a-e) 伝達の伝達といふこと

1. 吟誦詩人は詩人の言葉を伝達する。すなはち、吟誦詩人は伝達者の伝達者である。

2. ソクラテスの問ひ……吟誦詩人イオンが叙事詩を巧みに語って聴衆を感動させるときイオンのあり方は如何。彼は正気を保つてゐるか、それとも神にのり移られてゐるか。

3. 答へ……正気ではない。

4. ソクラテスの指摘……吟誦詩人は聴衆たちをも同じその目に遭はせてゐる。
5. イオンの同意。

第七章 (535e-536d) 指輪の列と神の乗り移り (靈感)

1. ソクラテスの所謂「指輪の列」はその末端に聴衆を、中間項に吟誦詩人や俳優を、最初の項に詩人自身を持ち、神々はこれらを仲介にしてその牽引力を連鎖させ人々の心をどの方向へでも引っ張って行くこと。
2. そしてこの連鎖なるものは詩人がどのムウサに繋がるかによってそれぞれに決定され、その詩人を出発点にしてそれぞれの人間が神の乗り移った状態となる。
3. それ故、イオンもまた自らが繋がってゐる連鎖以外の詩には無感動だが、しかしその繋がる詩人の詩には敏感になるのである。すなはち、「靈感を受けるか否か」がすべてである。

第八章 (536d-538a) 吟誦詩人の技術と異なる技術との個別性

1. ソクラテスのイオンのあり方の理由づけに対するイオンの全面的な同意の拒否。(7) 灵感に拠るのではなく人間的技術に拠るのだとの、ホメーロスを語るイオンの自信)

2. 半ばはイオンを受け入れながら、ソクラテスはその語りの前に確認を求める・・・イオンが巧みな語り手であるものは何についてであるのか？

イ. ホメーロスの語ってゐるものについて

ロ. その他のものについて

ハ. 何もかもについて

3. イオンの回答・・・2のハ（イオンに出来ぬものはない）

4. ソクラテスのイオンの3の回答に対する条件づけ・・・イオンは知識を欠くがホメーロスは語ってゐるといった事柄については、イオンは巧みな語り手ではないであらうこと

5. イオンの問ひ・・・ソクラテスの想定するやうな事柄は何か。

6. ソクラテスの回答へ

イ. ホメーロスはさまざまな技術について作品中至るところで語ってゐる。☞ 駁者術

ロ. 語られた事柄の識別能力を持つ者は誰か？ 駁者である。

ハ. ロの回答の正当性は駁者が技術を持つからである。

ニ. 技術の識別能力のあり方・・・全ての技術は、それぞれ或る一つの仕事を識別する。一つの技術に拠って知るとは別の技術に拠って知ることとは出来ないものであらうか。確認——

1. 技術にはあれこれの別があるが、それは各技術の対象が別々だからである。

2. 同じ種類の事物には一つの技術が対応し、二つの知識から同じ事物を知るなら二つの知識は同一である。

ホ. 確認 1. 2. に抛り、ニの問ひに答へる。同一の技術によって必然的に同一の事物を知り、異なる技術により必然的に別の事物を知ること

ヘ. それ故、何か一つの技術を欠如することはその技術によってなされる発言や行為を識別する能力を持たぬことである。

ト. イ. ロ. ハ. を踏まへて、ホメーロスの語り方の識別は吟誦詩人イオンがよりよく識別するかそれとも馭者の方かと問へば、答へは馭者であるとなる。

チ. ト. の理由・・・吟誦詩人は馭者ではない。

リ. 吟誦詩人の技術は馭者の技術とは異なり、従って別の事物を対象とする。

7. 6 の回答の補強

イ. 医療行為をホメーロスが歌ふ下りについては吟誦詩人よりも医者の方が語り方をよりよく識別する。

ロ. 魚釣りの場面をホメーロスが歌ふ下りについては吟誦詩人より魚釣りの技術の方がよりよく識別する。

ハ. 以上の如く各技術こそが判別すべき対象をホメーロスの中に見出したのであれば、占者とト占術が判別するに相応しい事物は何かを問ふ

ニ. 対するソクラテスの回答・・・『オデュッセイア』から、また『イーリアス』から

8. 確認の要求・・・同一の技術により同一のものどもを認識するが、異なる技術によっては同一のものどもは認識せず、別の技術であれば必然的に異なるものどもを認識すること

第九章 (538a-539d) 吟誦詩人の技術には何がよく語るべくも委されるのか

1. 前章8からの推論・・・或る技術の欠如しその技術による発言や行為の識別能力の欠如
2. 従って・・・ホメーロスの馬術についての歌の是非の判断もイオンよりは馭者が優れる。
 ……イオンは吟誦詩人であり馭者ではないから。
3. 吟誦詩人の技術は馭者の技術とは異なり、それ故、別の事物を対象とする知識である。
4. 3の条件の下で
 - イ. 医療行為についてのホメーロスの歌 (III. 11. 639-640) ……このホメーロスの歌の語りの良否の判別はただ医者だけのなすことである。
 - ロ. 魚釣りの術についてのホメーロスの歌 (II. 24. 80-82) ……このホメーロスの歌の語りの良否の判別はただ魚釣りの術だけのなすことである。
 - ハ. 逆に、卜占者の判別するに相応しい事柄が歌はれてゐる箇所は何処かを問ふ。
 それは Od. 20. 351-353, 355-357, また II. 12. 200-207 などである。

1. ソクラテスのイオンへの要求・・・ソクラテスがホメーロスにおいての卜占者の・医者 of 釣師の各領域を選び出したやうに、イオンもまた吟誦詩人の技術こそがよりよく判別する所を選び出すべきこと
2. 対するイオンの最初の回答・・・すべての箇所がさうであること
3. ソクラテスのその訂正要求・・・例へば馭者の技術は吟誦詩人のそれとは異なつてをり、また従つて認識対象も異なるやうに、吟誦詩人以外の技術が対象とする領域に関しては、最早吟誦詩人はそれを認識対象とは出来ぬはずだったのでないか。
4. 訂正要求を受け入れてのイオンの新たな回答・・・男子が・女子が・奴隸が・一般市民が・人の下に立つ者上に立つ首長などがそれぞれ言ふに相応しいこと
5. ソクラテスによるその回答の絞り込み
 - イ. “上に立つ者”を各々の技術的支配において立つのだと我々が見るべきなら、海難時の・病気の場合の・牛の世話の場合の・毛糸を紡ぐ場合のといったどんな場合でも語るに相応しい言葉を知るのは、吟誦詩人ではなくて各々の技術者であらう。
 - ロ. (従つて、吟誦詩人はどのやうな技術的支配において上に立ちつつその場に相応しい言葉を語ることがあるのかといふことが問題であらうが、それは)男子が將軍として兵隊らを鼓舞激励する言葉として相応しいやうな性質が問題である場面であるといふことになるのか？
6. 5のイ. ロに拠る絞り込みを承認し、吟誦詩人の技術が軍略統帥の術であることを認める。

第十一章 (FROTHING) 二つの技術を一人の吟誦詩人として持つといふこと

1. そのイオンの承認のソクラテスに拠る理由づけとその含む問題の分析

イ. イオンは今、吟誦詩人といふ専門家であり軍略統帥の専門家であるといふ、二つの技術の所有者である。

ロ. 今、二つの技術の所有者であるとした場合は、一つの技術の働きは一つの技術を持つ限りで認め、他のそれは他のそれを持つ限りで認めるだろう。

ハ. イの如くイオンが今二つの技術を持つ専門家であるとして、軍略統帥のことは軍略統帥の技術によって知ってゐるのかそれとも吟誦詩人としての技術によるのか？

2. イオンの回答・・・そこに区別はない。二つは私においては一つの技術である。

3. その主張の下で考へるべきことの諾否

イ. 優れた吟誦詩人はまた優れた將軍である。Γ. α. イエス。ホメーロスの作品から学んだ。

ロ. 優れた將軍はまた優れた吟誦詩人である。Γ. α. ノー。

第十二章 (GALIC-52b) 吟誦詩人としてのみの技術の突出とその神がかりたることの承認

1. ソクラテスの疑問・・・何故にイオンは二つの技術の所有者でありながら吟誦詩人としての技術のみを行使して將軍としての

技術は行使しないのであるか。需要の問題なのか。

2. イオンの回答・・・自国は占領下にあり將軍を必要としないし強国アテナイやスパルタは自前で將軍を満たし、イオンを將軍として必要とすることはない。

3. イオンの回答を受けて

イ. 前例に即する限りはアテナイが他国出身の者を將軍にしたことはあるのだからイオンの將軍として求められる可能性はある。

ロ. ホメーロスについて技術と知識とによってホメーロスを称讃してゐるのならはその現場を示すべきであるのに、イオンはただ將軍として現はれて見せるだけである。従ってこれは不正であるから不正を免れるためには技術と知識とによってではなく神がかりの人間であることを承認すべきである。

4. イオンの神がかりの人間であることの承認

5. ソクラテスの総括